

令和8年度 品川区 当初予算案 プレス発表

— 令和8年2月17日 —



3年間の取組

誰もが生きがいを感じ、自分らしく暮らしていける品川

一貫して、区民の抱える不安や不満などの「不」を少しでも取り除き
未来に希望が持てる社会をつくるための施策に大胆かつ積極的に取り組む

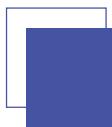
「区民の幸福(しあわせ)」=ウェルビーイングに着目

年齢や性別、障害の有無等にかかわらず、誰もが自分の望むように生き、
幸せを感じることができる社会の実現を目指し、区政を推進

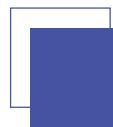
「幸福(しあわせ)」を予算に ～ウェルビーイング予算の編成～

3年間の取組

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —



日本経済新聞社・日経BP 2025年版
「共働き子育てしやすい街ランキング」



アカチャンホンポ
「子育て満足度ランキング調査」

第1位／159自治体

【調査対象】首都圏、中京圏、関西圏、政令指定都市
人口20万人以上の都市計159自治体

ICT導入による手続き効率化、学童での食事提供、
共働き世帯の利便性向上策等、43項目を評価した
ランキング

第2位／135自治体

【調査対象】アカチャンホンポ会員(回答10,837名)
【調査期間】2025年8月～9月

子育て世帯の「リアルな声」を集めるために、
全国のアカチャンホンポ会員を対象にアンケート実施

アウトリーチを含め、子育てを社会化する取組が高く評価

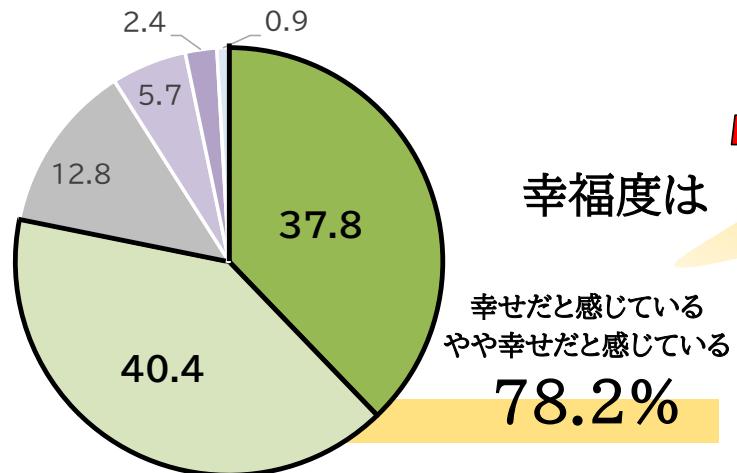
3年間の取組

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

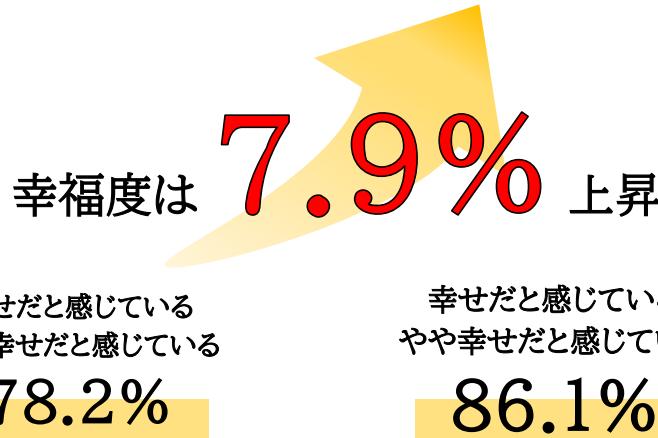


ウェルビーイング予算にて新たな政策を前に進めたことにより 区民の幸福度は着実に向上

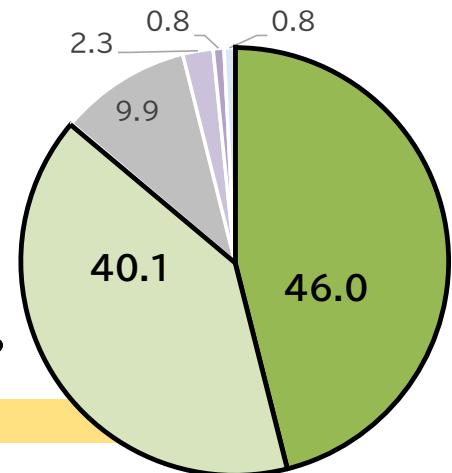
令和5年度実施 区民アンケート



【幸福実感度(単位:%)】



令和6年度実施 世論調査



■ 幸せだと感じている ■ やや幸せだと感じている ■ どちらともいえない ■ あまり幸せだと感じていない ■ 幸せだと感じていない ■ 無回答

誰もが生きがいを感じ、自分らしく暮らしていける品川

「区民の幸福(しあわせ)」=ウェルビーイングに着目

人生の選択を阻まれることなく、自分らしく生きられる社会へ
—「弱者を救うのではなく、弱者を生まない社会」の実現 —

「幸福(しあわせ)」を予算に
～ウェルビーイング予算の編成～

過去最大 総額2,369億円の予算（前年度比+0.9%）

事務事業評価

区政の652事業における施策の 検証・見直し・アップデートを図る

事業のスクラップ・削減により約15億円を捻出

区民の幸福(しあわせ)につながる新たな施策に大胆かつ重点的に振り向ける

「ウェルビーイング予算3.0」を編成

重点施策① 区有公共施設の「子ども料金」無償化_予算額:3,048万円

都内初・新規

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

プールや体育館などの区有公共施設の子ども料金を所得制限なく「0円」に

背景

様々な無償化施策(所得制限無し)を実施

令和5年度	(1) 第2子保育料の無償化 ※令和7年度から第1子も
	(2) 学校給食の無償化
	(3) 高校生までの医療費無償化
令和6年度	(4) 【都内初】学用品の無償化
令和7年度	(5) 【都内初】修学旅行の無償化 (6) 【23区初】区立学校の制服の無償化

子育て7つの無償化へ

新規事業の概要

学びと体験の機会を広げることで、体験格差を解消し、子どもの健やかな成長を支援

○対象者:18歳以下の品川区民

○対象施設:プール、体育館、ボルダリング、歴史館、プラネタリウム、弓道場など



重点施策② 子育て世帯への住まいの支援 予算額:1,371万円

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

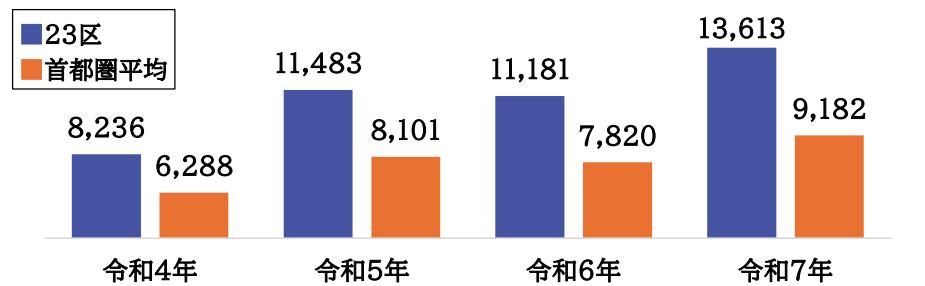
子育て世帯が区内での転居を断念することなく品川で暮らし続けられる支援

背景

【品川区「子育て世帯」の転出超過状況】

	令和4年	令和5年	令和6年
夫婦のみの世帯	▲901	▲630	▲560
夫婦+子の世帯	▲875	▲557	▲498

首都圏新築分譲マンション平均価格の推移（単位:万円）



※データ出典：株式会社不動産経済研究所

子育て世帯の経済負担は増大

新規事業の概要

<子育てファミリー世帯への転居費用助成>

区内在住の子育て世帯が、区内の住宅(購入・建築・賃貸)へ転居する際の転居費用を助成

【助成内容】

助成額	住宅購入	最大30万円
	賃貸住宅	最大15万円
	多子(3人以上)世帯	最大2万円加算
対象経費	転居費用、仲介手数料、礼金	

【主な助成要件】町会・自治会への加入



猛暑の時代に対応した新たな都市モデルの構築

気候危機・気候変動による災害級の猛暑から命を守るため、
日陰を軸に都市のあり方を構築し、品川から社会に発信する都市戦略

海外先進都市の事例

スペイン セビリア市
「日陰都市戦略」



歩道の遮光性シェード

アメリカ ニューヨーク市
「都市森林計画」



街路樹の樹冠

新規事業の概要

「涼しく歩きたくなるまち」を実現

<既存の取組>

- ・グリーンインフラの整備、公園ミスト設置、脱炭素の取組等を推進

個別の施策を都市の在り方として検討

<新たな取組>

- ・涼しさのシンボルロード構想
- ・冷却空間の創出
- ・建築物へのインセンティブ
- ・新たな補助制度

<「涼しさのシンボルロード構想」イメージ>



重点施策④ ストーカー・DV対策支援パッケージ_予算額:1,562万円

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

深刻化するストーカー・DV被害等から区民を守るためにの防止策

背景

ストーカー、DV被害ともに増加傾向

ストーカー相談件数(都内)

※データ出典:警視庁



DV相談件数推移(都内)

※データ出典:警視庁



新規事業の概要

① 一時避難宿泊費助成 《最大21泊》 23区初

ストーカー・DV被害の未然防止のため、性別を問わず避難を希望する区民が区や警察を通じてホテル等に一時避難した場合、宿泊費の一部を助成

② 加害者に対する更生プログラムの受講支援 《1人10回程度》 23区初

ストーカー・DVの重大化や再被害を防ぐため、加害者に対し医師や臨床心理士等によるカウンセリングプログラムの受講を支援

③ 盗撮被害等の対策としてのミラー設置

駅および商業施設のエスカレーターや通勤・通学で利用している歩道橋での被害に対応するために、シールミラーを設置し「見せる盗撮対策」を図る



重点施策⑤ 非課税世帯へのエアコン購入費等助成 予算額:3,392万円

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

生活保護世帯を中心として物価高騰の影響を受けやすい住民税非課税世帯を守る

背景

猛暑による熱中症等被害が急増



東京都の熱中症搬送者数の推移



新規事業の概要

「高齢者熱中症見守り宅配事業」
における利用者アンケートをもとに事業化



住民税非課税世帯(生活保護受給世帯を含む)のうち、
エアコン未設置世帯に購入・設置費用を助成し、猛暑による熱中症を予防

対象世帯	品川区内在住の住民税非課税世帯(生活保護受給世帯含む)で、利用可能なエアコンがないなど一定の要件を満たす世帯
助成内容	エアコン購入・設置費用を最大10万円まで助成



子どもの声を区政に

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

こども会議(全3回実施)

「こども基本法」に基づき、令和7年4月に「品川区こども計画」を策定。「こども会議」は、こどもたちの多様な意見やアイデアを集め、区政に反映させることを目的に実施

(参加者) 検討テーマに興味・関心のある小学5年生～18歳の方18人



<提案例>

○スクールカウンセラー室の環境整備

→相談しやすい環境を整え安心して利用できる体制を確保

○身近な場所で意見を言える機会の拡充

→児童センターやすまいるスクールで意見を出せる環境づくり

リバースメンター(全4回実施)

地域や社会課題に関心のある中高生をリバースメンターに選び、専門家や区職員のサポートを受けて政策を立案。成果は区長にプレゼンし、事業化を目指す

(参加者) 地域課題や社会課題への問題意識を持つ中学・高校生の方10人



<提案例>

○企業と連携し探求的学習を推進

→自ら課題を発見し解決策を考える力を養う

○品川区公式SNSの認知度向上を目指すPR強化

→若者に区のSNSを知ってもらい、身近に感じられるきっかけづくり

主要施策(安全安心を守る)

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

1. しながわ防災区民憲章の制定 都内初・新規 590万円

- ・東日本大震災から15年の節目に、都内自治体として初となる防災憲章の制定
- ・「備える」「あいさつする」「伝える」「行動する」を柱に据え次世代へと引き継いでいく決意を明文化
- ・啓発用の「安否確認タオル」を配布し、区民に「共助」の取組を周知

2. AEDの区内コンビニへの設置拡大および三角巾の追加配備 1,052万円

- ・コンビニ運営会社と協定を締結し、新たに60～70店舗にAEDを新規配備
- ・設置済みの88台と合わせ、区内コンビニ設置数は約150台に拡大
- ・夜間や休日も24時間使えるAEDの環境を充実

主要施策(安全安心を守る)

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

3. 高齢者・障害者等世帯木造住宅の不燃化・耐震化促進 5,040万円

- ・不燃化建築工事および耐震補強設計・改修工事の助成支援を拡充
- ・不燃化工事に区独自で最大150万円を上乗せ助成
- ・耐震化は設計・工事とも補助率を最大10/10に拡充

4. 感震ブレーカーの設置促進で地域の防災力強化 3,273万円

- ・特に火災リスクが高いと国が指定した重点地区で、木造・非木造を問わず感震ブレーカー設置補助を強化
- ・分電盤タイプは一般世帯で5/6(上限8万円)、高齢・障害者世帯等で7/8(上限10万円)補助
- ・アース付コンセント型は申請額を全額補助(上限3万円・全世帯共通)

5. 災害時トイレ空白を解消 公園へのマンホールトイレの整備 新規 3,000万円

- ・品川区災害時トイレ確保・管理計画に基づき、災害時トイレ空白エリアを解消
- ・マンホールトイレの排水、生活用水確保のため、井戸と非常用電源を整備

■ 主要施策(社会全体で子どもと子育てを支える)

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

1. 区独自の個別的ケア認定里親制度の創設 都内初・新規 246万円

- ・令和8年6月から、区独自研修と児童心理治療施設での実習を新規開始
- ・研修・実習修了者に月2万円を給付し、経済的負担を軽減
- ・トラウマ症状等の心理的な問題を抱える児童の養育を支え、里親の専門性を強化

2. マッチング型ベビーシッター利用料の補助 新規 450万円

- ・マッチング型ベビーシッター利用料を補助し、利用者の多様な保育ニーズに対応
- ・1時間あたり日中は1,000円、夜間は1,500円を補助し、年間144時間まで利用可能
- ・補助対象とする事業者を区が独自に認定し、保育の質や安全性を確保

■ 主要施策(社会全体で子どもと子育てを支える)

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

3. リプロダクティブ・ヘルス／ライツの理解促進 新規 305万円

- ・幼児期から正しい性知識を家庭で伝えるための啓発
- ・3歳児健診で体の大切な部分(プライベートゾーン)を伝える絵本型リーフレットを配布
- ・保護者向けワークショップで家庭での「性の話の伝え方」を学ぶ機会提供

4. 子どもの権利に関する新条例の制定に向けた検討 新規 709万円

- ・子どもを権利の主体として尊重する考え方を明確化
- ・ワークショップ・子ども会議で、声を届けづらい子どもを含めた幅広い意見を反映
- ・子どもが安心して相談・救済を求められるよう権利擁護機関を設置

■ 主要施策(社会全体で子どもと子育てを支える)

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

5. すまいるスクールの無償プログラムのさらなる充実 2,375万円

- ・放課後の「体験格差」を解消するため、すまいるスクール6校で先行的にスタート
- ・地域人材を活用した総合コーディネーターの新規配置
- ・「外国語」「理科実験・探求」「プログラミング」「ダンス」など、多彩なプログラムを提供

6. 区立学校の改築～改築困難校の建替え基本構想策定に着手～ 新規 4,950万円

- ・改築が困難な区立学校2校(三木小学校、大崎中学校)の建替えに向けた基本構想を策定
- ・周辺道路や敷地状況などを考慮した課題・条件を整理
- ・令和8年度に基本構想を策定し、令和9年度以降に設計業務へ移行

主要施策(生きづらさをなくし住み続けられるやさしい社会を作る)

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

1. 5種類のがん検診(胃・肺・大腸・子宮頸・乳がん検診)をすべて無償化 1,699万円

- ・新たに「胃がん検診」「乳がん検診(マンモグラフィ検査)」を無償化
- ・これにより、国が推奨する5つのがん検診(胃・肺・大腸・子宮頸・乳がん検診)をすべて無償化
- ・経済的負担を軽減し、受診率向上と早期発見で死亡率の低下を目指す

2. 男性専用の相談事業を新たにスタート 新規 80万円

- ・男性向けに、こころ・生き方・人間関係の悩みを専門相談員が相談対応
- ・悩みを一人で抱え込みやすく、相談につながりにくい男性の傾向を踏まえた相談事業
- ・区内在住・在勤・在学の男性を対象に、面接または電話で、月1回・50分以内の個別相談

主要施策(生きづらさをなくし住み続けられるやさしい社会を作る)

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

3. ICTを活用した日常生活用具等の充実

8,702万円

- ・都内初、専門オペレーターがオンラインで支援する視覚障害者向け遠隔サポートを導入 都内初・新規
- ・スマートフォン・タブレットに加え、移動支援デバイスや排泄予測支援機器などICT機器の給付を拡充
- ・ストマ用装具の給付上限引上げや自助具等を新規給付対象とし、日常生活の質を総合的に向上

4. 障害児者移動支援事業者運営支援の拡充

新規

3,976万円

- ・外出が困難な障害児者の通学や余暇活動を支える移動支援事業者を支援
- ・区独自補助で給付費へ40.2%上乗せし、ヘルパーの賃金を向上
- ・通学支援は30分未満でも60分相当の報酬を支給し、需要の高い時間帯の人材確保を支援

主要施策(生きづらさをなくし住み続けられるやさしい社会を作る)

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

5. 障害者を受け入れる日中一時支援事業運営費の助成 新規 3,707万円

- ・特別支援学校卒業後、夕方の預かり支援が手薄になる「18歳の壁」への対策を強化
- ・延長対応する生活介護や障害者受入れ日中一時支援事業所に、1人1日2,500～24,000円を助成
- ・受入定員と事業所数の拡大を促し、家族の就労継続と介護離職の回避を支援

6. 福祉オンブズマンの設置 新規 20万円

- ・福祉サービスに関する相談や苦情を、行政から独立した第三者が調査・助言する仕組みを検討
- ・福祉・法律分野の専門家で構成する検討委員会(年3回)を設置
- ・令和8年度に検討開始し、令和9年度の条例整備を経て制度開始を目指す

主要施策(生きづらさをなくし住み続けられるやさしい社会を作る)

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

7. 心身障害者福祉会館の建替え等整備検討 新規 2,140万円

- ・障害のある方の相談・訓練・交流を担う「地域生活支援拠点」の将来像を検討
- ・築48年の建物について躯体・設備を調査し、修繕・建替えを含め整備方針を整理
- ・将来の建替えを見据え、利用継続に配慮した工程や代替施設確保の考え方を検討

8. 品川区手話言語条例制定5周年記念 新規 89万円

- ・令和8年7月で条例制定5周年を迎えることを記念したイベントを実施
- ・講演会や手話教室、パフォーマンスなど多彩なプログラムを予定
- ・条例制定5周年を契機とし更なる手話の理解促進・普及を図る

主要施策(生きづらさをなくし住み続けられるやさしい社会を作る)

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

9. 区立学校にスクールカウンセラー等を独自配置 新規 3,193万円

- ・いじめ・不登校や心身不調など多様な悩みに、身近で安心して相談できる体制を整備
- ・全校にスクールカウンセラーを追加配置し、中学校等を中心に入居者ソーシャルワーカーが学校支援
- ・相談しやすいカウンセラー室の整備と心理・福祉の連携で早期対応を強化

10. 特別支援教育推進計画の策定 新規 668万円

- ・障害の有無にかかわらず、一人ひとりに合った学びを実現する特別支援教育の指針を策定
- ・教育・福祉・保健など多分野の委員で構成する推進委員会を設置し、多様な視点を反映
- ・中長期の視点で施策を整理し、誰一人取り残さないきめ細やかな教育を計画的に推進

主要施策(生きづらさをなくし住み続けられるやさしい社会を作る)

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

11. 子ども・若者フリースペースの新規開設

2,725万円

- ・区有施設を活用し区内2か所目のフリースペースを新規開設(令和9年度上半期)
- ・生きづらさを抱える小学生から30代まで対象。落ち着いた雰囲気で安心を提供
- ・相談支援と社会体験の機会を提供し、若者の自立を伴走型で支援

12. インクルーシブスポーツ事業の推進

新規

1,873万円

- ・デフリンピック後のレガシーを継承するため、継続事業を「インクルーシブスポーツ事業」として再編
- ・「インクルーシブスポーツセンター」を新たに任命し、認知度向上を啓発
- ・年齢・性別・障害の有無に関わらず、誰もが共に楽しめるスポーツ環境を実現

■ 主要施策(未来に希望の持てるサステイナブルな社会をつくる)

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

1. プレミアム率20% 紙・デジタル商品券の発行

5億2,490万円

- ・過去最大の年間24億円の発行規模(紙2回・デジタル2回 合計4回)
- ・紙・デジタル商品券をプレミアム率20%で発行
- ・物価高騰の影響を受ける区民の生活を下支えし、区内商店・事業者の活性化につなげる

2. 全国各地と共存共栄する新たな自治体連携モデル

1,091万円

- ・連携自治体が提案する「ワーケーションプログラム」への参加に交通費・宿泊費を補助 新規
- ・2自治体で実施する体験交流ツアーを拡大し、合計5自治体で実施
(山梨県早川町、福井県坂井市、長野県飯田市、茨城県茨城町、神奈川県小田原市)
- ・各地域が互いの強みを活かし、共存共栄を図る新たな自治体連携モデルの構築

■ 主要施策(未来に希望の持てるサステイナブルな社会をつくる)

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

3. ごみ収集車運行管理システム導入で収集を見える化 都内初・新規 2,804万円

- ・23区初、スマートフォン等からごみ収集状況をリアルタイムで確認できる仕組みを導入
- ・集積場所と道路情報から、最適な収集ルートを自動作成、作業の効率化を実現
- ・区全域を一体運用し、ワークシェアと収集量の分析により収集量の平準化にもつなげる

4. AIオンデマンド交通の実証運行を大崎地区にも拡大 3,200万円

- ・荏原地区に続き、区内2地区目となる大崎地区(西品川・大崎・戸越・豊町の一部)で実証運行を拡大
- ・主要な施設や駅などをミーティングポイント(乗降場所)に設定
- ・区内交通空白地における移動の利便性向上を図る

■ 主要施策(未来に希望の持てるサステイナブルな社会をつくる)

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

5. 女性ITエンジニア育成で区内企業の人手不足解消を支援 204万円

- ・出産・子育て等で離職中や非正規就労の女性を対象にITスキルの習得を支援
- ・セミナー・体験・講座受講から就職までを一体的に支援し、区内企業の人手不足解消につなげる
- ・国制度に区が上乗せ助成し、受講料の自己負担を最大実質ゼロに

6. 生成AI・デジタルプラットフォームを活用した業務効率化 新規 2,366万円

- ・生成AIで判断材料を整理・比較し、予算査定や行政評価の検討作業を効率化
- ・電話自動応答システムを導入し、24時間対応や多言語対応で定型的な問い合わせに対応
- ・「デジタルプラットフォーム」を活用して区民意見募集し、区政に反映

■ 主要施策(未来に希望の持てるサステイナブルな社会をつくる)

— 令和8年度 品川区 当初予算案プレス発表 —

7. 臨海部の国際美術展会場をつなぐ舟運を実施 新規 2,000万円

- ・国際美術展「TOKYO ATLAS」(令和8年10月10日～12月20日)の開催にあわせて天王洲と他会場をつなぐ舟運を実施
- ・「アート×観光×舟運」を通じた水辺の賑わいづくりの創出
- ・国際イベントを契機とした「水辺地域」の回遊性強化

8. ふるさと納税返礼品の充実による寄附収入の拡大 3億344万円

- ・令和7年度住民税流出額は59.6億円に達し、区の財政運営に深刻な影響を与えている
- ・体験型を中心に魅力的な返礼品を積極的に追加する
- ・地元企業であるサンリオのキャラクターぬいぐるみなど、特色ある返礼品を新規開発